都道府県名	徳　島　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	藍住町立藍住北小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	２	２	３	２	３	２	１７	２４
児童数	８３	６９	６６	８６	７８	９２	６	４８６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

個に応じた学習指導への取り組み
　－算数科・少人数指導のあり方を中心にして－

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

５・６年生「算数」
　児童の理解や習熟の状況に差が出やすい教科，学年であるため。

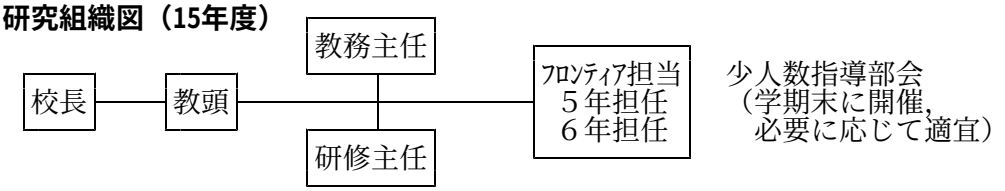
(2)　年次ごとの計画

平成15年度	**○テーマ** 「少人数指導のシステムづくり」 **○研究の見通し** ＴＴ・人数等分の少人数指導・課題別指導・習熟度別指導など，さまざまな少人数指導の形態を，児童の実態・単元の内容と照らし合わせて実践し，最適な指導形態を追究していく。 **○研究の内容・方法** 学習集団内において個々人の習熟の差が小さくなることが，個に応じた指導に欠かせないとの考えから，基本的には，第５学年（２学級）・第６学年（３学級）をそれぞれ４グループ・５グループに分けて，単元を通した習熟度別少人数指導を行う。グループ編制は児童の希望を尊重する。グループ担当教員も単元ごとに交替する。

平成16年度	**○テーマ** 「基礎・基本の定着を図る取り組みのあり方」 **○研究の見通し** 各習熟度別グループの指導目標にしたがって，各 20 人程度の少人数学習集団に対して，教科書を中心に教材を準備し，指導方法・評価を工夫することで，一人ひとりの児童の学力をつけていく。 **○研究の内容・方法** 15 年度の実践を土台とし，第５学年・第６学年の「算数科」において，原則として単元を通した習熟度別少人数指導を行う。当年度の児童の実態や単元の内容に沿うよう，ソフト・ハードの両面において指導方法の工夫改善を行う。算数の授業時間外の指導体制の工夫についても積極的に取り組む。

(3)　研究推進体制

研究組織図（15年度）



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○習熟度別少人数授業が児童・保護者・教員のいずれにおいても定着した。
○習熟度別グループの選択も含め，児童の自己評価力が育ちつつある。
○個々の児童の授業への意欲が高まった。
○ノートの書き方指導を行った結果，整理された見やすいノート作りができるようになってきた。

２．今後の課題

○補充的・発展的な学習の工夫（授業時間内外）と教材・教具の開発を進める。
○評価とそれを生かした指導のあり方について研究する。
○教員の授業力向上をねらい，講師を招聘するなど研修会を実施する。
○教科としての基礎・基本の力の前提となる「読むこと・話すこと・聞くこと・書くこと」にかかわる力を育む取り組みを充実させる。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

○５・６年生の算数科において，年間を見通した指導計画の資料として活用するため，年度当初（今年度は５月）に「全国標準診断的学力検査（ＮＲＴ）」を実施。また，年度末（２月実施予定）には，今年度の指導の成果の検証（５・６年生）とあわせ，来年度の指導計画の資料（４・５年生）とするために，同テストを実施。
○情意面の把握のため，年２回（中間・年度末）アンケートを実施。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

○平成 16 年度秋頃に，公開授業研究会を実施予定。
○研究成果普及のための研究紀要作成について検討中である。

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校

【学校規模】　□６学級以下　□７～１２学級　■１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上

【指導体制】　■ 少人数指導　■ Ｔ．Ｔによる指導　□ 一部教科担任制　■ その他

【研究教科】　□ 国語　□ 社会　■算数　□ 理科　□ 生活　□ 音楽　□図画工作　□ 家庭　□ 体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　■ 有　□無